

取組名	災害時のロープワークや搬送法について		
特徴	日本赤十字社山口県支部と連携した防災教育		
学校名	県立光高等学校 定時制	期日	平成30年12月18日(火)

1 ねらい

災害時のロープワークや搬送法の実習を通じて、自らの命を自ら守るために主体的に行動できる力を育むとともに、周囲の人や社会の安全に貢献できる力の育成を図る。

2 概要

(1) 取組の流れ

日本赤十字社山口県支部と連携し、赤十字の防災・減災のノウハウを本校の防災教育に活用することで、災害時に生きる知識や技能の育成を図ることを目的に活動を展開した。定時制生徒の実態をふまえて教員間で協議した結果、赤十字防災講習の中でも、実習を伴う内容の「ロープワークと搬送法」を選択し、実施した。

(2) 当日の流れ

本校生徒を2グループに分けて実習を実施

17:40 Aグループ ロープワーク

Bグループ 搬送法

18:00 Aグループ 搬送法

Bグループ ロープワーク

18:25 実習終了



ロープワーク (1)



ロープワーク (2)

3 成果と今後の課題等

(1) 成果

本校の防災教育は、講義型のものが多かったが、今回実習という形で行うことで、生徒たちが意欲的に取り組む姿勢が見られた。また、山口県赤十字防災奉仕団の方々による実際の災害現場で生きる知識や技能に触れ、また体験することで充実した防災教育となった。実習を通じて、自らの命を自ら守るために主体的に行動できる力を育むとともに、周囲の人や社会の安全に貢献できる力の育成につながった。



搬送法 (1)

(2) 課題

学校における防災教育には、外部の教育力を積極的に活用すべきだと、改めて感じた。また、講義型ではなく、実際に体を動かしながら、知識や技能を自分のものとして習得していくことで、災害時に積極的に行動できる力を今後も育んでいく必要がある。さらに、災害時には避難場所になるなどの中心的な役割が求められる学校に勤める教職員も、積極的に防災に関する情報収集や研修を行わなければならないと感じた。



搬送法 (2)